

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570807644		
法人名	株式会社 大曲仙北介護支援事業所		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	秋田県大仙市大曲西根字鳥居57-1		
自己評価作成日	令和2年11月19日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和2年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホーム周辺は田畑に囲まれ乗馬場やスポーツセンター、温泉、隣接するショートステイがあり、近所を散歩しながら季節を感じて頂き健康維持に努めている。ホーム中庭、畑では花や野菜を作り、ご利用者の皆様と鑑賞や収穫を行っている。新型コロナウイルスの影響でドライブや外食等の外出の機会は少なくなりましたが、その分棟内行事を充実できるよう職員が様々なアイデアを企画している。また、年2回の地域交流会も中止となってしまったが、ホームから認知症予防についての情報を発信したり、民生委員や地域の老人クラブを通して情報交換を行ったりと地域に根ざしたグループホームとなれるよう取り組んでいる。棟内より花火を鑑賞することができ、利用者様の楽しみになっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年は地域交流の機会が確保できなかったもののこれまで培ってきたものがあり、地域の方々との関係は築き上げられています。コロナ禍で外出制限が続く中、通院の帰りに買い物の機会をつくったり、ホームの中に居ても楽しいと思っただけのよう、職員がさまざまな工夫をしながら利用者のストレス解消のために努力しています。勤務経験の長い職員が多く、趣味や楽しみ事が継続できるように対応しており、利用者とはより家族に近い関係をつくり、落ち着いて暮らすことができている雰囲気を感じられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者が地域の中で自分らしく暮らしていけるよう「一人ひとりが笑顔で健やかに」という理念を掲げている。また、廊下、ホール、玄関等に掲示し常に意識できるようにしている。	利用者の思いを聞き、職員が感じ取ったことを暮らしの中に取り入れる努力をして実践に繋げています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍で地域とのかかわりが難しい状況ではあるが、事業所や地域の行事や状況について、民生委員や地域の老人クラブを通じて連絡を取り合うことができている。	コロナ禍の現状で例年のように地域の方々と交流行事を楽しむことはできなかったものの、情報発信は続けており、地域密着型事業所としての役割は担っています。ご近所とは野菜のお裾分けをし合っています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	コロナ禍で今年の地域交流会は、ホームから地域へ出向いた形で行うことはできなかったが、認知症の予防に関する資料を配布することで、交流を深めることができている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため書面にて入居者状況や行事報告等を行っている。返信用紙にご意見を記入して頂き、サービス向上につながるよう努めている。	書面上の会議ではありますが、資料を送付して意見を出していただいた上で報告書を作成しています。毎回コメントを記入していただいております。サービスの向上に活かせるよう努力しています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	高齢者包括支援センター、高齢福祉課担当の方と必要に応じて電話や訪問していつでも連絡が取れる体制をつくり、協力を得られるようにして頂いている。	関係部署とはお互いに協力し合う関係にあり、連携が図られています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会への事例提供、勉強会や研修を通して、各職員が身体拘束について正しく理解できるよう努めている。	研修を通じて周知を図り、職員は内容を理解して取り組み、現在身体拘束の事例はありません。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を通して学び、またそれを他の職員へ勉強会を通して伝え学ぶ機会を持っており、自ら考え意識できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修を通して学ぶ場所が得られている。以前は日常生活自立支援事業を利用している方もいた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にホームの概要、対応等を書面と口頭で十分に説明し理解と納得を頂くよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	事務所の前にはご意見箱を設置したり、事業所からのお便りに毎月ご意見やご要望をいつでもお寄せ下さいと載せている。また、面会時や電話では率直な意見や不満等が伝えられる雰囲気を作り、意見を反映するように努めている。	家族には遠慮なく意見を出していただくように伝えていきます。支援内容に関する意見が多く、要望は介護計画に反映させています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は毎月のミーティング時に意見を出し合える機会があり、管理者に伝えている。また、管理者は月初めの本部の会議に出席し意見や提案ができる場がある。	職員の意見は管理者を通じて法人本部に伝える体制になっています。日常の業務の中で意見、提案が出され、利用者の日々の暮らしに反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の休みの希望を聞きシフトを作成している。有給の取得率も高い。就業規則により、労働時間が決まっております働きやすい環境にある。資格取得後は資格、役職手当を支給している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ禍で職員全体の研修が難しい状況である為、少人数での内部研修やDVD等を使用することで、なるべく多くの職員が研修に参加できるよう努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡会を通して、地域におけるネットワークづくりを行っている。会主催の研修に参加できるよう、ネット環境やタブレット端末の準備を進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の事前調査等で本人の相談や希望を聴く機会を持っており対応できるよう努めている。又、入居後は会話の機会を増やし小さな変化にも対応できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申込時に家族の相談や希望を聴く機会を持っており対応できるよう努めている。又、職員間での情報共有を行いスムーズな入所につなげている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	会話の中で本人の昔の生活や経験等を教えてもらい、毎日の生活や行事等に活かしており、日々学び共に支え合う関係を築くよう努めている。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	電話等で要望や希望を伺い一緒に考えるよう努めている。現在、ネット環境やタブレット端末の準備を進めており、テレビ電話等を使用しながら、本人と家族、職員が同じ時間を共有できるような体制づくりを行っている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族に相談しながら関係が途切れないよう支援に努めている。	現在は中止していますが、本人にとって懐かしい場所を訪ねたり、家族との面会にも制限を設けているため、電話で繋がりが保てるようにしています。職員を家族のように馴染んで生活できるよう支援しています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	相性の関係や利用者個々の状況を把握し、座席の工夫や環境を整えており、トラブルなく関わり合えるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じ相談や支援を行い、関係の継続に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からの希望や要望を聞き意向の把握に努めており、随時相談を重ねている。	職員は普段から利用者を注意深く観察し、話もよく聞き、申し送り等を通じて情報を共有してケアに反映できるよう取り組んでいます。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期の面談時に聞いた情報や生活歴記入表等を基に生活歴等を把握している。また、本人や家族との会話の中から新たな情報を得られるよう努めている。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活の様子や心身、排泄の様子等を各用紙に記入しており、申し送りにて把握できるよう努めている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会話を通して得た本人の思いや、利用者の状況をお便りや電話、面会時などお話しし、家族の意向を取り入れて計画を作成している。又、ケアカンファレンスでは、意見やアイデアを出しやすいように努めている。	日常記録を基にモニタリングを行い、家族の意見も参考にしながら職員が話し合っ介護計画を作成しています。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に1日の様子を記録し、申し送りノートにて全職員が情報を共有できるような体制をとっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行事や避難訓練にはたくさんの地域の方に参加して頂き協力を得ている。また、地域の学校行事や催し物に招待頂いている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用契約時にかかりつけ医について説明し理解を得て受診の体制を整えている。また、個々の状態に合わせて希望に沿った医療機関を受診している方もいる。	家族が遠方に住んでいる場合は協力医に変更した方もおりますが、入居前からの医療機関を継続利用している方もおり、受診には個々の希望に応じた支援が行われています。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送りには必ず参加して頂き、日常生活の様子や体調について報告している。また、体調の変化が見られる時には都度報告・相談し、必要な時には受診介助を行ったり、処置をして頂いている。利用者様情報提供書を共有している。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時に医療機関と情報交換を行い、状態の把握に努めている。医療機関や家族と調整しながら早期に退院できるよう相談に努めている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医の意見と看護師の意見を職員間で話し合い、家族へ状態報告を行って変化に応じて検討を行っていきたい。	医師の確保ができず、終末期の支援は行っておりません。家族にはホームでできる支援の現状を説明しています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急救命講習を行っており初期の対応できるよう備えている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回日中、夜間の地震、火災を想定し、地域の皆様や消防団の方、消防署の方の協力を得ながら避難訓練を行っている。また、緊急連絡網には地域の方も載せて頂いている。ホームでは日中、夜間と火の元確認の自主点検を行っている。	年2回の訓練には十数人の地域の方々の協力が得られており、2ヶ月に1度はホームで自主訓練を行い、食料も備蓄して緊急時に備えています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人一人の思いに寄り添い、場面に 応じた声掛け、声の調子、対応等に配慮し ている。	申し送りを通じて利用者の状況を確認し、排 泄時の誘導や声かけの仕方等、配慮ある対 応ができるよう取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自 己決定できるように働きかけている	周囲の雰囲気作りに配慮し、本人なりの表 現で思いを伝えたり自己決定がしやすい環 境づくりを心掛けている。又、個別に会話を する機会を定期的に作り、気兼ねなく自分 の思いを話すことができるように努めてい る。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一 人ひとりのペースを大切に、その日をどのよう に過ごしたいか、希望にそって支援している	本人の生活ペースに合わせて過ごすことが できるよう努めている。また、意志の伝達が 困難な方に対しては、家族への聞き取りや 本人の表情や言動から希望の把握に努め ている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう に支援している	ホーム内に理美容室が設置されており、希 望時や定期的に理容師さんに来て頂いて、 散髪や髪染め等ができるようにしている。家 族の協力により馴染みの美容院に通われ ている方もいる。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者職員が一緒に準 備や食事、片付けをしている	利用者一人一人に合わせて、食事前の準 備、配膳、食後の後片付け等、分担しなが ら行っている。一人一人の好みに合わせ栄 養のバランスが偏らないよう代替え食の提 供もしている。	冷蔵庫を確認してメニューを決めることが多 く、利用者もできることを手伝い、畑の野菜が 献立に上がることも楽しく食事ができることに 繋がっています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて 確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態 や力、習慣に応じた支援をしている	調理の際は、利用者に応じた食事形態で食 事を提供できるように工夫しており、摂取量 の確認を毎食後必ず行っている。夏場には 脱水防止のため水分補給をこまめに行うよ うにしている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一 人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケ アをしている	起床時、毎食後には歯磨きやうがいを促 し、自力でできない方には介助を行ってい る。また、就寝前には義歯の洗浄消毒も行 い清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し、一人一人に合わせた声掛けや誘導を行っている。必要以上の介助はせず、声掛けから排泄後までプライバシーに十分配慮し介助を行っている。	トイレでの排泄を基本とし、その人の状態に合わせて適切に支援しています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事のメニューはたくさんの食材が摂れるように工夫をしている。便秘の方には薬だけに頼らず軽運動で予防に努めている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	その日の健康状態を把握した上で入浴を行い、心身共にリラックスできるよう雰囲気作りにも努めている。	一番風呂を好む方、拒否する方等、その時々状況に応じて適切に支援しており、週2～3回の入浴時間を確保しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活ペースや状況に合わせて、ゆっくりと過ごして頂けるよう努めている。また、適度な疲労感を感じて頂けるよう生活の中にレクリエーションや軽運動を取り入れ、夜間の安眠につなげている。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導と薬の説明用紙にて薬の働き、注意事項、副作用を確認し、食事の際の禁止食等に配慮している。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や現在の状況を把握し、洗濯物干し、台所仕事、畑での収穫作業、散歩等を声掛けし、一緒に行っている。月刊誌の購入や飲酒の機会など個々の楽しみの支援も行っている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為、外出は極力控えている状況ではあるが、その分園内での行事に力を入れている。又、散歩や買い物の代行を行うことで、外出の雰囲気を感じられるよう努めている。	毎月行っていたドライブを控えていることから、渡り廊下で日向ぼっこをしたり敷地内を散歩したりと、思うように外出できない状況の中で気分転換できることを考えた支援が行われています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居後、家族の了解を得てホーム側での立て替え形式を原則としている。入居者で手持ちのお金を利用したい方に関しては、預かり金保管規定により預からせてもらうこともできるようになっている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族と相談し、状況や時間を見て電話や手紙のやり取りをしている。現在、テレビ電話の開始に向けて、ネット回線やタブレット端末の準備を進めている。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下には季節ごとの装飾や行事の写真を飾っている。台所は開放され調理の音や匂いが流れやすくなっている。また、天気や気温に応じてカーテンでの光の調節、またクーラーの使用を行っている。	廊下には利用者がつくった作品や季節の飾りつけをして話題づくりに役立っており、利用者の目線に合わせてトイレ等の場所を表示し、混乱せずに使用できる工夫をしています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人一人の居室があり、自由に過ごす空間がある。ホールのソファや食堂でそれぞれ思い思いに過ごせるような居場所がある。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の好みの物で居室を飾ったり、使い慣れた物を使用して頂いたり本人が安心して居心地良く過ごせるように配慮している。家族の写真など大事に飾っている利用者も多くみられている。	入居時に持ち物に制限がないことを伝えており、家族の協力も得ながら在宅時と同様の暮らしができるよう環境づくりがなされています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態を把握し、自立した生活ができるように見極め、できない所を支援している。スロープや手摺の設置、段差の解消、引き戸の設置等バリアフリーの建物になっている。また、入浴時には転倒防止のため、滑り止めマットを使用し安全な環境づくりに努めている。		